

全頭処分へ夜通し作業

津・豚熱 県、防疫措置に5000人超動員

家畜伝染病の豚熱（CSF）に感染した豚が確認された津市の養豚場では十五日も、飼育されている豚の殺処分が続いた。約一頭処分は県内では最大規模で、その後の消毒なども含めた作業は三十日まで続く見込み。法令上、同じ養豚場内の全頭が殺処分の対象となるが、ワクチン接種済みの豚も含まれることに、関係者からは疑問の声も上がる。（須江政仁、松本貴明、斎藤雄介）

ワクチン接種済みまで：疑問の声

十四日午後九時すぎ、豚熱発生が国の検査で確定した同市の養豚場に、県職員二十九人が白い防護服姿で到着した。敷地内でゴーグルを身につけ、ゴム手袋と長靴をテープで固定。三十分ほどで準備を終えて豚舎へ。自衛隊員も合流し、計約百人で夜通し殺処分にあつた。

「再開までの道のりは汨
が出るほど大変」。二〇一
九年七月、県内の養豚場と
して初めて感染が確認され
た「松葉ジックファーム」
(いなべ市) の松葉泰幸社

長は、自身の経験をこう振り返る。当時はまだ県内でワクチン接種が始まっており返る。当時はまだ県内でワクチン接種が始まっておらず、感染確認後、場内で殺処分することに「致し方

飼育する全ての豚約四千頭が殺処分された。「従業員の雇用問題や、事業再開の許可がなかなか出ないことに悩んだ。精神的にかなりきつい日々だった」



豚熱の発生が確認された養豚場で殺処分や防
疫措置を進める県職員ら＝津市で（県提供）



防疫作業に向かう県職員を激励する鈴木知事(右)。津市桜橋の県津庁舎で

知事が担当職員らを激励

鈴木英敬知事は十五日、津市内の養豚場で発生した豚熱の現地対策本部が置かれていた県津厅舎(同市)で、殺処分などに携わる県職員たちを激励した。

ら伝えてもらい、作業がしつかり進むようにしてほしい」と指示した。前葉泰幸津市長と陸上自衛隊第三三普通科連隊の向田俊之連隊長も同行した。

県によると、発生農場で
の全頭処分は家畜伝染病予
防法で定められており、國
はワクチンの効果が絶対で
はないとの立場。一方、國
内で開発された強力なワク
チンの影響で、〇七年に國
は十五日、全約一万頭
のうち、同日午後三時まで
に四千四百八十一頭(44・
8%)の殺処分が完了した
と発表した。

た経緯もある。鈴木知事は「発生した豚
舎や行き来のある豚舎に限
定するやり方もあるはず。
今回の防疫措置を完了後、
何らかの形で国に要望して

銅育する全ての豚約四千頭
が殺処分された。「従業員

「それでも全ての豚が内での豚熱相違もある」とした上で、
「ない部分もある」とした上で、

令和3年4月16日
中日新聞